

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	○他者と関わり合いながら、自らの問いを解決していく力 (探究的な学びへの態度)	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	○授業のねらいを明確にし、児童が学びを振り返る時間を確保する。【各単元で1回以上】 ○どのような考えで、その答えになったか児童が筋道立てて説明する時間を設ける。 また、互いの考えを聞き、疑問に思ったことを伝えあう機会を設ける。【各単元で1回以上】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率が高い一方、「書くこと」に課題が見られる。特に集めた情報から根拠を整理し、自分の考えを文章で構成・記述する設問の正答率が低い傾向にある。児童質問紙調査では、互いの意見を尊重し話し合う姿勢は見られるが、資料や文章の構成を工夫して伝える意識や、振り返りを深める取組に向上の余地がある。対話を深めつつ、根拠を持って表現・記述する力の育成に引き続き努めていく。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	・児童は友達の意見を受け入れ、対話を通じて学び合う学級風土や素地(探究的な学びへの態度)を十分に備えている。 ・収集した情報を根拠としてまとめたり、自分の考えを相手に筋道立てて説明・記述したりする力の育成(思考・判断・表現の具体化)には、なお指導の継続と充実が必要である。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	・各単元で授業のねらいを明確にし、学びを振り返る時間を継続して確保できた。また、自分の考えに至った筋道を説明したり、疑問を伝え合ったりする機会を設定し、対話的な学びの定着を図ることができた。 ・筋道立てて説明・対話する機会は設けられたものの、根拠を明確にして文章で記述・表現する力には課題が見られるため、振り返りの質を高めつつ、記述力を伸ばす活動を全教科で強化する。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所